

〔雍州府志七〕釜 煮湯之具也。○中 厨料之大釜、或大鑊、賣之、伊勢國之所鑄、草花竹樹等之紋、甚細密、是謂伊勢釜。

〔續江戸砂子〕江戸名産 并近在近國

本所鍋同釜 五本松の邊、鍋屋七右衛門、釜屋六左衛門、

江戸の地釜といふは此二軒計也、下り釜は大坂、天満、上野の天明也。

〔江戸名物詩初篇〕釜六釜 小名木川

主人清湖綾垣連、從來好事風流禪、鑄得八百八町釜、日日賣出幾萬千、

〔諸問屋再興調八〕乍恐以書付申上奉候

一 鍋釜問屋行事五人組之内、芝田町五丁目善八店、佐次兵衛煩ニ付、代定七申上候、當四月十二日

御差紙頂戴仕、當御役所江罷出候處、右六ヶ條之趣、御尋御座候ニ付、組合一同申合、左ニ奉申上

候、

一 江戸中鍋釜問屋何拾人有之候哉之趣、御尋御座候處、右組合之儀ハ、享保九年辰八月中、町御奉

行所様ハ問屋仲買とも、人別書等被仰付候に付、奈良屋御役所江人數、貳拾五人、名前連名奉差

上、其後年來増減等も有之候處、尙又寛政二戌年二月中、御尋ニ御座候ニ付、喜多村御役所江其

節奉差上候、連印のもの廿八人に御座候、其後貳人加入仕、江戸中鍋釜問屋都合三拾人組合

御座候。○中

一 仲買のもの何拾人有之哉趣、御尋ニ御座候得共、鍋釜共ニ品多商賣體ニ付、江戸中三拾人一組

切之組合共ニ付、甚手挾之商賣ニ御座候故、商賣馴候者も少々宛附商賣之ものどもニ而仲買

と相定候ものも少々ハ可有御座候得共、耽と相定不申候、其外品在々江取次候者共義も、組合

共相糺候得共、是又相定候而仲買と申者ハ相知不申候、尤私共右ニ付問屋仲買小賣共ニ仕來